Our Story

アイズバイシクルの３０年

@YAMANAMI view way when Ikuo was 19 years old

I's BICYCLE の I は IKUO の I

アイズバイシクルの最初のお店は今のお店よりももう少し町に近い西大路通りに面した東側のマンションの一階にありました。

開店は１９８７年３月３日、親方が２９歳になったばかりの時、今からちょうど三十年前のことです。きっかけは当時勤めていた国鉄の分割民営化でした。大きな組織からの離脱をきめた親方は自分が唯一続けていた趣味の自転車を仕事にすることを選んだのです。

開店当時からお付き合いのある当時の問屋の担当者さんが「まさかこんなに続くとは」というほど小さなスタートだったわけですが、大きな通りを挟んだ反対の歩道からもガラス張りの小さな店内はよく見え、当時は珍しいスポーツ車ばかりを並べたお店はとても垢抜けて見えたものです。その頃扱っていた自転車はメーカー車の他、カスタムメイドの街乗車、ロードバイク、マウンテンバイクなど。今ではごく普通の自転車屋さんのような品揃えですが、当時はそれらが最先端。マウンテンバイクでは自ら最新の機材を導入し、レースにも参戦するほど楽しんでいました。ところが、マウンテンバイクが前後でサスペンションを使うようになり、ロードバイクが量販店でも買えるようになるに従い、興味が薄れ、もともと好きだったツーリング車（ランドナー）やヴィンテージの物をメインに扱うようになったのです。

１９９０年代、トライアスロンやMTBの本格的ブームの到来でランドナーは死語と化し、ランドナーを組むための部品や650Bサイズのタイヤやリムなどはほぼ消滅状態でした。数少ないランドナー愛好家の人たちは希少品となった欧州製のパーツを血眼で探し、思わぬ高値がつく物もいくつもありました。そこで、ヨーロッパに渡っては自転車黄金時代の完成車やパーツを捜すことを始めたのです。まだまだインターネットが普及する前の時代のこと、直接行って捜すしか方法はありませんでした。この頃はかつての自転車生産大国のフランス・イタリアを毎年のように訪れ、見聞を広め、人脈を築いてゆきました。

それでも旧い部品ばかりでは当然まかないきれるわけも無く、新しく作り出す必要がありました。ところが、あまりにも小さな市場となっていたランドナーのための部品の新規生産について、問屋さんやメーカーさんは全くと言っていいほど無関心でした。そんな中、唯一ハンドルメーカーの日東さんが小ロットで作ってくださったのが今もグランボアのラインナップにある「平行マースバー」でした。作りたい自転車を作り続けるための部品作りはそこから始まりました。まだグランボアのブランドを立ち上げる前のことでした。

今のお店には結婚を機に１９９５年に移転、グランボアのブランドを立ち上げたのはその翌年、１９９６年になります。そして、同時に製作した第1号車はフランスの自転車黄金時代を代表するルネエルスを完全に複製した一台でした。フランスから持ち帰ったエルスを何台もレストアする内に、その奥深さに魅入られてしまったのです。エルスを完璧にレストアするためには主要パーツのみならず、ネジ一本に至るまでその細部に拘って作らなければなりません。そうして蓄積された知識と技術と哲学はグランボアの理想の旅自転車のための製品開発に存分に生かされることとなりました。

かつての職人の手仕事を忠実にトレースすることで、その道を引き継ぎ、現代へ、更にはその先へと繋げると信じています。

兄のお下がりの自転車をバラバラにして塗装をはがし、缶スプレーで塗装して、好きなパーツで組み上げていた少年は、いつの間にか自分の夢の自転車を作ることを自らの生業としました。そうして生まれたグランボアは消えていくパーツと現代の自転車のためのパーツのはざまで、これからもその楽しさを追究するための自転車を作り続けます。

これからもどうぞよろしくお願いします。